

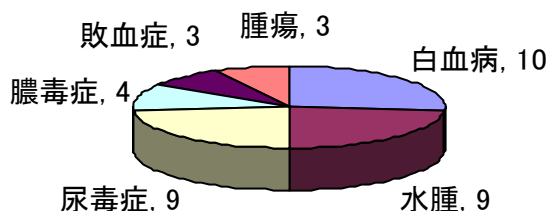
平成20年度の全部廃棄状況

全部廃棄とは、と畜検査において全身性の疾患と診断され、枝肉や内臓・骨などを食用不適として全て廃棄処分することです。

平成20年度に全部廃棄となった牛は38頭、豚は34頭でした。

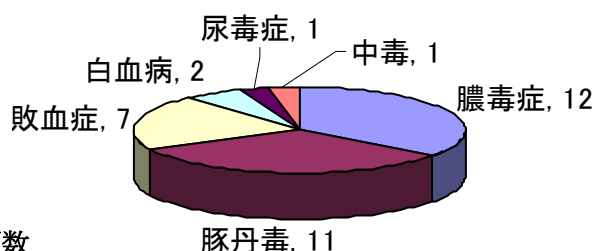
近年の傾向として、牛ではウイルス性疾患である牛白血病が増加し、豚では飼育環境の改善から膿毒症が減少しています。

牛の全部廃棄理由



※廃棄頭数

豚の全部廃棄理由



牛白血病

アブの吸血等によりウイルスが感染したリンパ球が伝播されて起こります。リンパ節の腫脹などの症状がみられます。



豚丹毒

豚丹毒菌により起こる細菌性疾患で急性敗血症型、蕁麻疹型、心内膜炎型、関節炎型があります。



尿毒症

腎臓や尿道の機能に障害が起こり、尿老廃物が体内に蓄積されるため枝肉や内臓に強い尿臭がします。写真は重度の腎炎を示しています。



膿毒症

外傷などから化膿菌が体内に侵入し、皮下や筋肉、内臓等に膿瘍が形成されます。

